

しっかり「叱る」 大人トランプ

本気で叱ろう！

大人は子どもを
どう叱ればよいかに
答えていきます



アンケート結果をまとめた
「大人しっかりトランプ」一部

終わりに

大人が見かける子どもの問題行動のベスト3は「公共で騒ぐ子ども」「自転車の二人乗り」「道路に座っている中学生」です。これらの行動について7割を超える人が注意しています。そして、「金銭をたかる子ども」に対しては半数を超える人が注意しています。

しかし、「万引き」や「いじめ」それから、「道路に座っている中学生」に対してはあまり注意していません。見過ごしているのです。これらが気になります。さらに、年齢を見ますと50歳以上は問題行動をよく見かけています。そして多く見られる行動に対しては注意するのですが、「万引き」や「恐喝」

という行動は見過ごしています。また、男性も意外に問題行動を見かけますが、注意をしていないのです。

そこで、子ども達にどんな注意をしたら良いかが大切になります。日本PCA教育振興会は有効であった注意の言葉かけを集め、トランプにしました。参考にして頂ければ幸いです。



『大人は子どもをどう叱ればよいか』
—『PCA教育振興会調査』より
千葉大教授 明石 要一
(日本PCA教育振興会顧問)

企画・制作 津霸好弘(日本PCA教育振興会 広報室)

学校支援者補償制度のおすすめ (学校支援地域本部事業対応)

学校・家庭・地域の連携は、子供たちの心身の成長を促す上で重要であり、また、学びを深めるためにも不可欠なものです。

平成21年度において、文部科学省の統計では全国で2400程の「学校支援地域本部」が設置されております。

学校支援地域本部では、小中学校の授業のお手伝いや、図書館の運営の手助けといった活動を地域の方々に担っていただけの様、地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備しております。

日本PCA教育振興会では、それぞれの学校において、校長が安心して学校の支援を地域の方々にお願いできるようにする為に、外部支援者（例：パソコン操作外部講師、文化活動外部指導者、スポーツ活動外部指導者、授業補助員、学校評議員等）の活用に際し、万一発生する災害等に対して学校が対応できるようにとの考え方のもと、「学校支援者補償制度」を提供しております。

平成21年度におきましては、全国で2500校程がこの制度を利用・活用して頂いております。

詳細につきましては、下記の学校支援者補償制度係にお問い合わせいただくな、日本PCAのホームページ (<http://www.j-pca.net>) をご覧ください。

日本PCA教育振興会役員

顧問 与謝野馨（元文部大臣） 島村宣伸（元文部大臣）
町村信孝（元文部科学大臣） 明石要一（千葉大教授）

相談役 中富文子（佐賀） 片桐良雄（長野）
三浦規雄（千葉） 橋本量太郎（大分）
薄田泰元（新潟） 岡部觀栄（大分）

会長 鈴木 仁（栃木）
副会長 田久保健美（千葉） 阿多祥一（宮崎）
専務理事 島田益吉（東京）
常務理事 佐保博文（大阪） 狐崎麻男（千葉）
田口豊實（青森）

監査役 小林庄市（福井） 松下文芳（北海道）
木下健介（東京）

理事 山田誠香（大阪） 田中康司（岐阜）
長谷部衡平（千葉） 井門照雄（愛媛）
島袋光尋（沖縄） 三角田慎二（三重）
荒川 律（栃木） 丸 洋栄（東京）

事務局長 東 洋子（東京）

日本PCA教育振興会
〒156-0056 東京都世田谷区八幡山3-6-2
TEL 03-5317-4131 FAX 03-3304-2188
URL <http://www.j-pca.net>

ご案内・事故時のご連絡

日本PCA学校支援者補償制度係

フリーダイヤル 0120-580-278 FAX 0120-590-279

はじめに

子どもたちが成長する過程で出会う第一の大人は（親）、第二の大人は（先生）、そして第三の大人は（地域の市民）と言われています。今の子どもたちは、この第三の大人たちとの接触が少なくなっているのが現状です。また、子どもを本気で叱らなくなっているとも言われています。しかし、子どもは叱られながら、反省を繰り返し成長していくのです。

そこで、これまでに、子どもの問題行動に対して、注意や叱つたことで効果があった事例を集計いたしました。

この「しっかり（叱る）大人トランプ」を通じて、子どもたちにどんな注意や叱り方をしたらよいかを、地域全体で、大人の役割を考える一助にして頂ければ幸いです。

日本PCA教育振興会 会長 鈴木 仁



1 なぜこの調査研究を行ったか

子どもの規範意識は崩れています。その結果、子ども達の問題行動が起きています。こうした状況に対して私たちは何ができるのでしょうか。手を挙げてよいのでしょうか。何かができるはずです。そこで、子ども達の視点にたって「本気で叱ろう」運動を起こそうと思い立ちました。その資料づくりのために調査を行いました。結果を報告します。

調査時期は2010年10月。

有効サンプル数：783名。

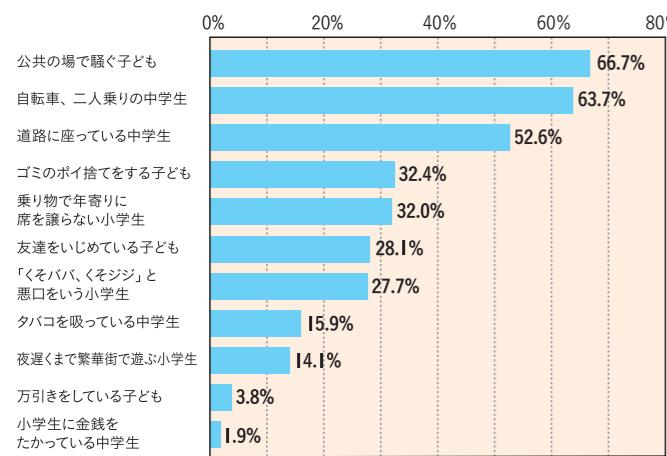
調査地域：東京、千葉、栃木、京都、企業。

2 大人は、子どもの問題行動を見ているか

（1）子どもの行動をどれほど見ているのか

図1は、全国の4つの地域住民または企業の方にアンケートをとった結果を数値の高い順で並べかえたグラフです。回答数は783人でした。あらかじめ用意した子どもの問題行動は11項目です。

図1 「見たことがある」子どもの行為



大人がよく見かけた（5割以上）子どもの行為は次の3項目です。

「公共の場で騒ぐ子ども」66.7%、
「自転車、二人乗りの中学生」63.7%、
「道路に座っている中学生」52.6%です。
3割ほど見られる子どもの行動は次の4項目です。
「ゴミのポイ捨てをする子ども」32.4%、
「乗り物で年寄りに席を譲らない小学生」32.0%、
「友達をいじめている子ども」28.1%、
「くそババ、くそジジ」と悪口を言う小学生」27.7%です。

学校の中で、「陰湿」、「見えない」といわれているいじめの行動も、地域の人たちにすこしは見えているようです。思いの外、万引きや中学生の恐喝は目にしていないようです。

（2）子どもの問題行動にどう反応しているのか—7割が注意する

図2は、子どもの問題行動に対して、「見過ごした」及び「注意した」という二つの反応のうち、「注意した」という回答のグラフです。7割以上が注意する問題行動は次の2項目です。

「公共の場で騒ぐ子ども」84.0%
「自転車、二人乗りの中学生」73.1%
次に半数以上が注意する行動は次の3項目です。
「夜遅くまで繁華街で遊ぶ小学生」55.2%、
「小学生に金銭をたかっている中学生」54.5%、
「ゴミのポイ捨てをする子ども」52.9%、
それに続くのが「道路に座っている中学生」42.0%、「タバコを吸っている中学生」30.1%、「万引きをしている子ども」28.9%です。

「小学生に金銭をたかっている中学生」(1.9%)のような問題行動はあまり表に現われていませんが、一旦発見されたら、地域の人に注意されているとわかります。一方、「万引きをする子ども」に対して、「注意した」人は28.9%しかなく、多くの人は「見過ごした」と反応しています。最後に、3割ほど見かけられた「友達をいじめている子ども」を直ちに「注意した」と答えた大人は11.7%で、1割にとどまっています。この二つの数値が気になります。

図2 「注意した」子どもの行為

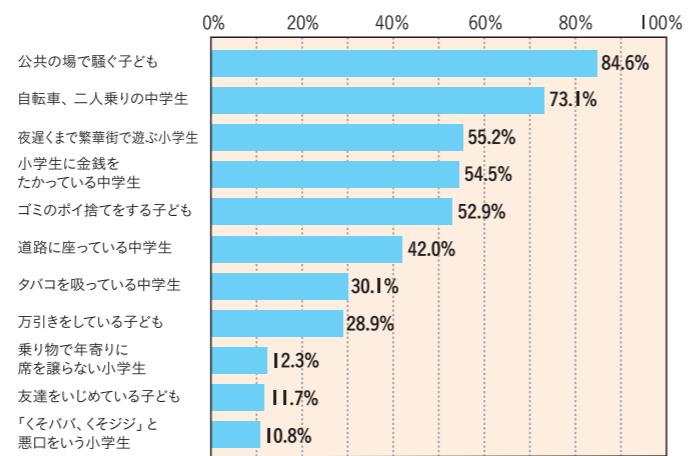
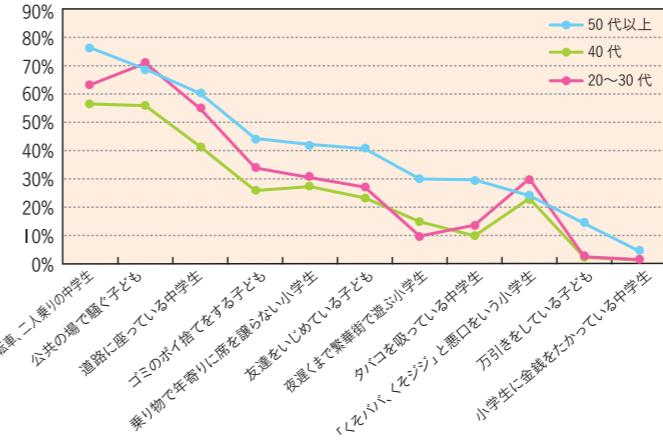


図3 年齢×「見たことがある」の割合



3 50代以上の大人はよく子どもを見ているが、あまり叱っていない

図3と図4は年齢層による「見かけた行動」および「注意した行動」の割合です。図3によると、子どもの行動をより見ているのは、50代以上の大人です。20代～30代、あるいは40代の人は会社で仕事をして、または子育ての最中のため、子どもの様子を見る余裕（機会）があまりないかもしれません。一方、50代以上の人たちは地域にいる時間が長いため、やはり子どもを見ています。

しかし一方、図4で示したように、子どもをよく見ている50代以上の人たちは、必ずしも子どもの問題行動を注意するまでいたっていません。ほかの年齢層より多く「注意した」子どもの行動は、「公共の場で騒ぐ子ども」（50代以上52.5%、40代43.2%、20～30代33.3%）と「自転車、二人乗りの中学生」（50代以上26.9%、40代9.7%、20～30代10.7%）2項目のみです。一方、「万引きをしている子ども」と「小学生に金銭をたかっている中学生」のような行動について、50代以上の人たちはほかの年齢層より多く見かけているにもかかわらず、実際に「注意した」と行動に結びつく割合がほかの年齢層より低いことは興味深いです。

4 男性はよく子どもを見ているが、あまり叱っていない

「男性は会社人間で地域での存在が薄い」とよく言われます。しかし、男性は子どもの行動を見ていないわけではありません。図5は性別による子どもの問題行動を「見かけた」割合です。どちらというと、男性は女性より地域で子どもの一面を見ていることがわかります。「自転車、二人乗りの中学生」（男性71.2%、女性61.4%）、「乗り物で年寄りに席を譲らない小学生」（男性38.8%、女性29.7%）、「タバコを吸っている中学生」（男性25.2%、女性13.2%）、「夜遅くまで繁華街で遊ぶ小学生」（男性24.3%、女性11.3%）4項目では、男性からの見かけ率は女性より1割多くなっています。コンビニ、スーパーで発生する子どもの万引き行動への発見も、男性は6.5%で女性（3.2%）

図4 年齢×「注意した」の割合



の倍となっています。

しかし、よく子どもの問題行動を見た男の人は、「注意する」まで連動するケースはむしろ、女性より低くなっていることは図6から見られます。一方、「タバコを吸っている中学生」の項目では、注意した男性は45.9%で女性（21.9%）よりも多い。したがって、男性はどちらかというと、行動範囲が広いので、子どもの地域社会でも動きを見る機会が多いです。しかし、見ても見過ごしたパターンも多いでしょう。ただし、「タバコを吸っている中学生」、つまり明らかに法律違反となっている行動に対して、男性は躊躇なく叱っています。それも男性の特徴かもしれません。

図5 性別×「見たことがある」の割合



図6 性別×「注意した」の割合

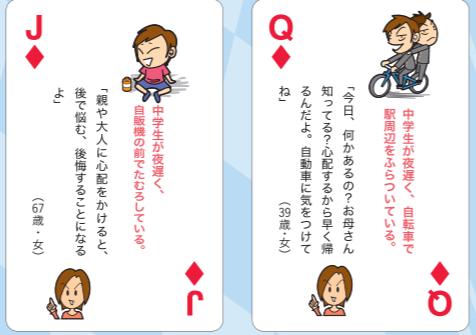


しっかり「叱る」大人トランプ一覧

■公共の場で



■自転車の危険乗



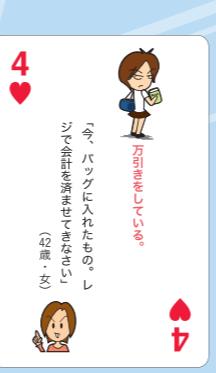
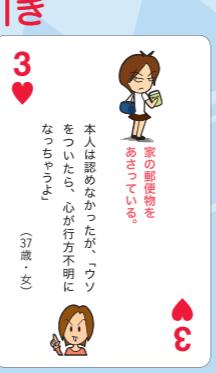
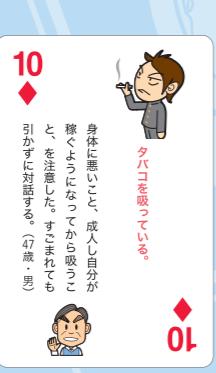
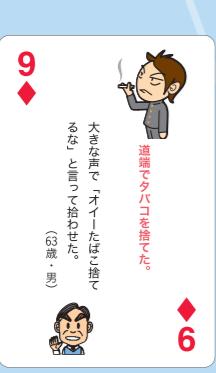
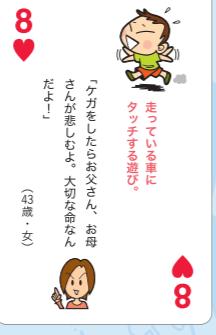
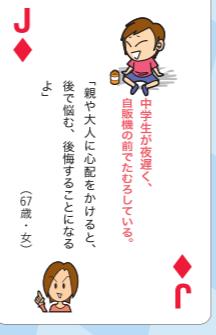
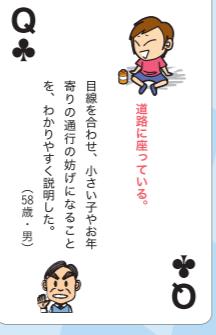
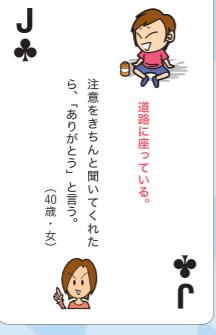
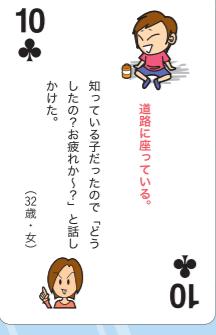
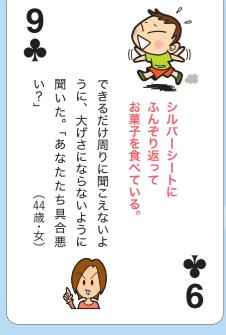
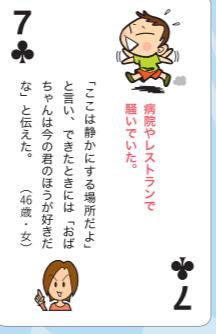
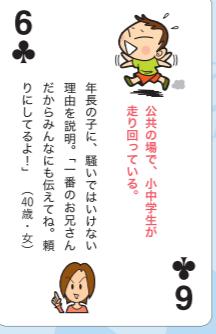
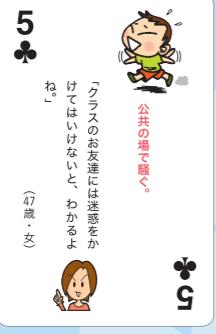
■いたずら?万引き



■いじめ



■ゴミのポイ捨て



本気で叱ろう!
大人は子どもをどう叱ればよいかに
答えていきます



日本PCA教育振興会